

# 3.カムイとともに

環境

## 「カムイ」って何だろう？



(上)「オッパイ山大祭」でのカムイ(神)への儀式「カムイノミ」。上士幌ウタリ文化伝承保存会。(上士幌町・東泉園: 2)



(右)オッパイ山(3)はアイヌ民族の聖地とされる。(上士幌町十勝三股から)

「カムイ」はよく、アイヌ語で「神」のことだといわれます。まちがいではないのですが、人間よりもはるかにえらい「神様」とは、少しちがいます。

私たちにとって、人間以外の生き物や自然(現象)は、命のもとであり、人の役に立つものであり、一方で、かなわないほどの大きな力を持ったものです。

すごく身近なだけけれど、人間の力がおよばないところを持った存在、尊敬して、感謝しながら利用もする相手、中には悪さをするヤツもいる、そんな「自然」が「カムイ」なのです。

この世はカムイ(自然)とアイヌ(人間)で成り立っているのです。

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん



ヒグマ。山の神(キムンカムイ)は、家の壁にかけてある毛皮とツメをつけ、クマのすがたになり、その毛皮と肉をおみやげとしてアイヌモシリにやって来てくれる。(写真:辻博希氏)

### 「目的」を持っている自然の生き物

伝統的なアイヌ文化では、アイヌ(=人)の世界である「アイヌモシリ」とカムイの世界である「カムイモシリ」があります。

自然界にあるものは、動物や植物でも、カムイモシリから「何かの目的を持って」アイヌモシリへ来た存在なのです。

例えば、木をただ切りたおしてしまうということは、仕事をするために外国から来た人を、何もいわず、何もさせずに送りかえしてしまうのと同じことです。あるいは、説明もせずイヤな仕事をさせることです。そんな失礼なことができるでしょうか。

舟などの材料にするというような理由がある時に、ちゃんと説明して、「私の役に立ってください」とお願いするべきでしょう。

### カムイに語りかける

これらカムイに対して語りかける時は、直接ではなく、木をていねいにけずって作られた祭祀具である「イナウ」や、うすくヘラのようにした「イクパスイ」を使います。それらを通すことによって、言葉がカムイに正しく届くのです。

家(チセ)の外の川上側にはヌサ(祭だん)がおかれ、イナウが立ちならんでいます。

火のカムイ(アペフチカムイ)は、人間の身近にあり、ほかのカムイとの仲立ちもしてくれるので、日々の生活の中でも儀式の時でも、必ず祈りをささげます。



(上)たくさんの「イナウ」が立てられた「ヌサ」。  
(左)「イナウ」をささげ、「イクパスイ」を使っているところ。  
(『オッパイ山大祭』上士幌町・東泉園)

1 アイヌ: アイヌということばには、(神や動物に対しての)人間、(メノコ[女性]に対しての)男性、(民族名としての)アイヌ、などの意味がある。(参考:『アイヌ語沙流方言辞典』より)

2 東泉園(とうせんえん): 上士幌町字上音更(p120・p129・p131)

3 オッパイ山(オッパイやま): 上士幌町と足寄町の境にある、ピリベツ岳と西クマネシリ岳の二つの山。三股(上士幌町)から2つのオッパイに見えるのでこう呼ばれる。